1931号（昭和34年1月8日第三種郵便物認可）　さいれん

とが討論された。また定期大会は、何もしてこなかったことを労働者の恥とし、水俣病と斗うことを満場一致の拍手をもって決議した。決議文は次の通りである。

運動方針、予算決算が決定された。いつか秋の気配のしのびよっている十九時すぎ、たくましい前進を誓って定期大会は終った。がんばろうを歌う固い団結の顔と肩も安賃斗争以来七年め、私たちは本日から直ちに昭和四三年度の斗いに突入する。

何もしてこなかったことを恥とし水俣病と斗う！

大会決議

水俣病は何十人の人間を殺し何十人の人間を生きながらの不具者にし、何十人のみどり児を生れながらの片輪にした。水俣病の原因がチッソの工場排水にあることは、当時からいわれており、今日では市民はもちろん、日本中の常識になっている。

その水俣病に対して私たちは何を斗ってきたか？私たちは何も斗い得なかった。

安賃斗争から今日まで六年有余、私たちは労働者に対する会社の攻撃には不屈の斗いをくんできた。

その経験は、斗いとは企業内だけで成立しないこと、全

直ちに水俣病一斉

廃液あわ

組合は八月二九日、水俣病に対する取りくみの第一歩として、会社が水俣病についてどう考えているかを質すため徳江重役、佐々木工場長出席の上団交を開くよう会社に申入れた。これに対して会社は、徳江重役、佐々木工場長とも都合がつかないとして来週半ばに団交したいといっている。

問題の廃液を日合→韓国に

売る段取りが進んでいた

八月二八日付の朝日新聞は、「アセトアルデヒド工場の運転を中止したとき設備内にたまっていた廃液や反応管を洗った水が約百トン。水俣病の原因物質とされる有機水銀を多量に含んでいるため、うかつに捨てられず工場内のタンク五基にそっくり保管しているというこの廃液中の水銀濃度は約一〇〇PMで異常に高く、熊大で側定の結

何もしてこなかったことを恥とし水俣病と斗う

新日本窒素労働組合

1968.8.31

書籍　37×55

さいれん 1931 号

新日本窒素労働組合旧蔵資料 4281

新日窒労組は1968年8月30日第31回定期大会を開催し、「何もしてこなかったことを恥とし水俣病と斗う」との決議を満場一致で採択した。水俣病の原因が工場排水にあることを知りながら、私たちは水俣病に対して何も斗い得なかった。これは、人間として、労働者として恥ずかしいことであり、心から反省しなければならない。会社の責任を認めさせ、水俣病の被害者の人たちを支援し、水俣病と斗うと宣言した。